

令和2年度 自己評価と学校関係者評価

学校自己評価	学校関係者評価	
	意見	対応
(1)教育理念・目標 ・学校の理念・目標・育成人材像が明確に定められ、国際化する社会、企業・業界のニーズを定義できている ・時代の変化に対応する将来の構想について適宜見直しが必要とされている	学校としての目標、学生自身が在学中に目指すべきゴールが明確になっており、学生が自らの目標を考えやすい環境になっていると感じます。毎週月曜日に行われている全校生徒に向けた朝礼も、学生・教職員ともに目標を再確認する場として、効果的に機能していると感じます。	職員一同が教育理念・目標を共有し具体的に教育現場に活かしていくようさらに努力していきます。
(2)学校運営 ・年度目標に沿って運営方針を定め事業計画を策定している ・学生の進路先である企業・業界・大学、学生募集窓口の高等学校や海外学校、提携エージェントとの連携はできている ・外部環境や時代の変化に対応できる組織運営を構築し、職員の育成を図ることが求められている	教育理念を踏まえたカリキュラムをしっかりと立てられており、新入生に対して、各専攻科へ進級時に面談を行うなど学習面だけでなく、就職まで見据えた適切な学生指導が行われていると感じます。新型コロナ禍の中で難しいことが多いと思われていますが、企業との連携は今後も強化する努力をしてほしい。学生作品を企業人が評価するイベント「卒業進級制作展示会」が、この状況下で安全面にも考慮して開催できたことは、評価できると思います。新型コロナウイルス禍の中、ZOOMを活用してオンライン授業への早期の取組を計り、学習に支障が出ないように配慮されている事は評価できる。	企業連携は、まだまだ単発が多いので、年間を通じて連携できる企業を増やし、企業、学生にとって魅力的な場を数多く定期的に提供できるように努力していきたい。コロナ禍の中でZOOMを活用することにより、企業担当者との移動時間の無駄が省かれ、今後リアルとオンラインを活用した取組を計りたい。
(3)教育活動 ・入学希望者のニーズや企業からの要望について、時代の変化を取り入れながら活動している ・就職先や進路先で求められる要件と課題を明確にしカリキュラムに反映している ・社会人として直ぐに対応できるよう、学生の生活態度や行動規範について学校生活や宿舍生活においても指導している ・留学生については日本社会に対応できるよう、日常生活に踏み込んだ指導を行っている ・進路先での技術・学力評価、人物評価を想定した目標を養うことが求めている ・卒業生の情報を収集し、進路先での問題点を抽出している	新型コロナウイルスの影響大きく、各企業も先行きが見えにくい状況にある。だからこそ、各企業が新入社員に何を期待しているか、その変化を学生が感じ取る必要があり、学校にはその為の準備をしてほしい。卒業生が実際の現場で感じているリアルな意見を収集できる体制づくりを継続して、より企業・業界のニーズに沿った教育を助めて欲しい。シリコンバレーでの短期研修は、学生がワールドワイドなトレンド、フレームワークやニーズを知る貴重な機会であり、オンラインになったとしても継続できて良かったと思う。今後も継続してほしい。	卒業生との連携は継続して深め、卒業生による企業セミナーなども企画していきたい。オンラインも活用して、企業によるワークショップ、現役エンジニアによる作品講評の機会を増やしていきたい。シリコンバレー研修は継続して行い、コロナ禍が収まれば、現地での研修を再開したい。
(4)学習成果 ・資格対策やものづくりの向上については一定の成果をあげているが、より実践的な技術を磨くことを課題としている また、キャリア教育の面で課題を整理している ・日本語能力試験対策においても一定の成果をあげている	1年次には基礎学力と資格取得を目標としており、オンラインでの授業がメインとなった状況下で、例年とほぼ同数の資格取得が達成されたこと、何より対面してのミーティングが難しい状態で、多くの学生がチーム制作の作品を、例年と遜色ないレベルで展示会に向けて完成させられたことは大いに評価できる。現在、各企業ともテレワークが増加しており、就職後も生きる経験ができたと思う。そして社会的な課題解決をテーマとした作品も多く、学生の意識向上が感じられる。卒業進級制作展の模様や作品紹介の動画を編集してホームページにアップして紹介してはどうでしょうか検討ください。	基礎知識と実践的な技術、知識はもとより指摘いただいた社会常識に対してもカリキュラム内に取り入れ教育を行う。特にオンライン授業への工夫にも取り組んでいきます。この先を見据えてコロナ禍が収まった後も、テレワークは続くと考え、それに対応できる学生育成には引き続き力を注ぎたい。卒業進級制作展での動画編集にあたって実施できるよう検討を行っていきます。
(5)学生支援 ・学生との個別面談などを通じて個々の学習面、生活面での観察サポートは一定の成果をあげている ・保護者や出身校との情報共有を含め学生のメンタルトラブルの予防や対応を図っている ・留学生アルバイトについて、アルバイト先開拓やクレーム窓口を含め担当職員をおき管理している	学生の体調やメンタル面について、個々をよく見ていてと感じます。特に今年度は、コロナ禍によるオンライン授業で、学生が見えにくい状況であったと思います。今後も安心できない状況であり、今まで以上に学生に寄り添った支援を行っていただきたいと思えます。専門学校ではあまり行われていない保護者会や保護者面談などをこの状況でも継続されていて、情報共有や問題解決など、保護者と協力関係が出来ていると思えます。	個々への学生への配慮、保護者との連携は、教職員が心掛けて継続します。保護者会では、オンラインでも実施した結果、例年より多く(特に他府県の出身学生)の保護者の参加くださり、今後も会場とオンラインを並行して実施していきたいと思えます。
(6)教育環境 ・施設・設備についての課題を抽出し、解決にむけ改善着手している ・計画に基づいて防災対策を整備している	新型コロナウイルスへの対策として、オンライン授業環境づくり「Webカメラ・インターネットの強化・ZOOMソフトの活用研修」、そして各教室にオゾン発生器や消毒液等を設置して、安全確保に努めたことは評価できます。	引き続き学生の安全を第一に考え、状況に合わせた対応を行っていきたく思います
(7)学生の受け入れ募集 ・目標に向け計画的にルールに従って活動している ・学習成果が評価されるように情報発信している、また効果的な情報発信ができるよう工夫している ・留学生については、現地面接と家庭訪問により経済的基盤などを確認し、入国審査に対応できるようにしている	オープンキャンパスを年間33回開催されており、また学外広報活動では、高等学校内や会場での進学セミナーに参加し入学希望者に情報を伝える努力をしていると感じる。また、学校のホームページには学生作品、オンライン説明会等の情報が発信されていることで入学を検討する上での判断材料となっている。	入学希望者によりわかりやすく本校の魅力や成果を伝える為、今までの違った環境下で、オンラインを活用した非対面で発信できる努力をしていきます。
(8)財務 ・デザイン・コンピュータ学科の学生募集はコンスタントに毎年入学者数が増加の実績をあげている ・日本語科は新型コロナ禍で海外からの入学が厳しく、留学生は募集は厳しい状況であるが入国が始まり改善の状況が見えてきた	このコロナ禍で、経営的に困窮する学校が増えていると聞きますが如何でしょうか。	デザイン・コンピュータ学科は大きな収入減少にはありませんが、日本語学科において、留学生の入国が遅れたり、通常の授業形態が取れない等の理由で(主にオンラインで海外と授業を行っていた為)辞退者が発生し収入に影響が出ています。今後のコロナの世界的な状況をしながら経営戦略を検討する所存です。
(9)法令等の遵守 ・平成25年度より自己評価を実施し公開している ・留学生の受け入れ、生活支援において在籍管理を徹底している また、犯罪や不法滞在を未然に防ぐべく、警察との情報交換を定期的に行っている	留学生に限らず、法令遵守や社会生活のマナー等については、専用に時間を設けるなど、よく取り組んでいると思います。引き続き、継続して取り組んで下さい。引き続き客観的に意見・評価をしていきたい。」	継続して行います。
(10)社会貢献・地域貢献 ・学生が地域の祭礼に参加しイベントのサポートを実施している、また近隣の清掃を定期的に行っている ・教育業界の各団体の役員・メンバーとなり活動している ・日本語教師養成講座を年2回開講し、社会人の転職活動を支援している ・ウクライナ避難支援に向けて動き出す	地域の祭礼や清掃活動などに参加する機会はありませんが、学生にとって貴重な経験になっているかと思えます。引き続き継続して取り組んで下さい。特に祭礼や清掃は周辺地域の方々に学生の姿を見ていただけるため、大切にしているのが学習面だけでなくということを知っていただける良い機会であり、継続して行ってほしい。	継続して行います。